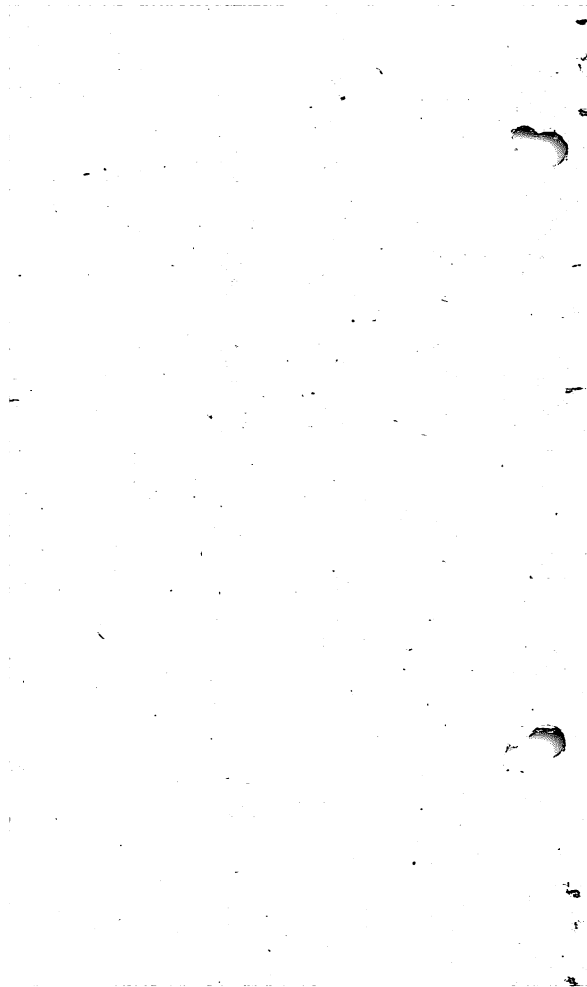


SIMAC

975 春山連休 《報告》

- ① 日高縦走 (975.3.)
- ② 利尻山 (")
- ③ 南ア縦走 (")
- ④ 石鎚山 (975.4)
- ⑤ 自馬東面 (975.4)
- ⑥ 明神稜岳・岳沢ゴゴ屋根 (975.4~5)
- ⑦ 唐沢岳東屋根 (975.4)



☆北日高縦走

◎私の言葉 1月も終わろうとする頃、山の全く思い付き的な発想で、ホッとデッキ上げた様な「日高」という山域、メンバーも寄せ集めで、「日高」の基にまとまったものではなかった。そして十分な調査、問合せもできずいまま、ビクビク地図と本で「知らない山」に入ったのだが、好天に恵まれ、ナントカ予定を消化し、無事下山できに集は、何よりの喜びだった。1年生も5人も含む9人で、慣れないスキーを使って、ツェルト、雪洞を中心とした山行ができたんだから。下山日に、谷筋から広がる雪原を滑って、やっとスキーを脱いで、ビワイロへの長い道をシートラップ歩き始めに時のあの気持は、わすれられない。

◎Member

L 福島 渉 (A-3) S.L. 吉田 秀樹 (L-3) 須貝 与志明 (A-2)
 豊田 信行 (A-2) 井上 雅子 (A-1) 岡本 真一 (A-1)
 左山 幹雄 (S-1) 藤元 治朗 (M-1) 二俣 勇司 (L-1)

A: 農 L: 人文 S: 理学 M: 医進課程 数字: 部歴

◎期間 S50、3.7 ~ 3.16 行9 泊1

◎行動記録

(注) △ ツェルト泊り 合小屋泊り
 □ 雪洞泊り

3月7日 ○→△ [△]

静内(5:30) → 新冠ダム(7:00) → モウレル林道 → 奥新発電所(17:20)
 (12:00) ←

静内より新冠ダムまでマイクロバスで行く。バスの遅ちゃん日く、これより先は雪があるから行けない。発電所へは左の道(モウレル林道)を行けばよい。道標では右の道となっていたが、親切なおじさまの言葉に従ってモウレル林道へ。しかし行けども行けどもモウレル湖の奥へ行くのみ。ついにあきらめて引返す。はたして、新冠川左岸のダムより発電所までは除雪しており、車も通れる道であった。結局、あのおじさまの為に1日つぶす。

3月8日 ○→○ 風やや強し [合]

発電所(7:10) → ルバツ岬よりの沢と林道のぶつかりた所にある廃屋(16:00)

スキーにてラッセル。ラッセルはくほどなし。ただ前皮が切れたり、シールがはがれたり、いろいろ故障多く、セッティング進まず。おまけに昼近くよりシール面ダンゴとなる。ダムにつかずに11:15になる頃小屋を見つけそこで宿る。

3月9日 ①→② 北殿 [合]

朝のNSBで北極道上空を低空飛行が通過するらしい。朝から小屋の修理、途中から地吹雪状になった。夕方からさまり夜は星も見える。

10日より2Partyに分かれて宿る

(Ap. L吉田 豊田 井上 左 岡本)

3月10日 ①→② [△]

小屋(6:40) - 奥新冠ダム(8:20) - 上の二俣(11:05) - 1400m地塊(16:00)

奥新冠ダムより11:01に長かった木向沢p.と分かれて懐尻沢に入る。つたが倒木激しく右の沢を少しづつめる。しかし、尾根の乗越に手首をひねってしまう。結局予定した左の沢へ雪の降る中ヘルトをはる。この

歩きから解放される。却ってスキーで降り100m分岐より予定では左の沢をつめる筈であるが尾根を乗越すつもりで1200m位まで沢をつかき戻す。しかも反対側へ降りるのにアプサイズをいらす。結局この尾根がために1400m地塊まで降り、晩は又スレになってしまった。

3月11日 ②→③ 風やや強し [△]

C(7:30) - 森林限界1600m(8:30) - 懐尻岳お近づきの主稜上(1950m)(12:00)

体はぬれ天気もよくなりがちだが動かし難さetcを考え尾根がたりに登る。主線路上に出たものの、雪が少なくて2回

方ので重く。左の沢へトランスを考えるが天気の悪化を考慮し森林限界あたりからクラストしはじめアプサイズで稜線が全くわからず、折角は早朝が雪洞をほる。選んだ道でかろうじて十分のスキーを作る。

3月12日 ③→④→⑤ [△]

C(7:30) - 懐尻岳(7:50) - 戸島別岳(10:40) - 戸島別岳康コル(14:10)

快晴なれど風強し。今日はすべて別岳までは、急な下りとカール登のほしい所である。戸島別岳よりにはコルにつく。コル付近は平坦で結局下にかしほり積雪を歩いた。しきりで意外に調子よく二小

アイゼンで行く。懐尻岳北の肩の下りから戸島別岳の急な下り。雪の状況が悪ければカールが向きの関係もあり多少もぐりかたが早く元気があつた。又雪でもはりだしてあり雪洞の境定選定に迷う。夕方トランシーバー交信でB partyもあす台流を喜ぶ。

3月13日 ⑤→⑥ [△]

BC(6:30) - 1791mp(8:55) - カムイ岳(10:10) - BC(14:25)

アイゼンよく効かず。又ラッセル予想されて結局ミートラして行く。1791mpから南へ走る尾根上はやせていて右側、樹林をトランス気味に。ミートラがうらめしい。カムイ岳ですぐ近くにBpを確立。今日の台流を確認してBCへ戻る。夜は赤視川のアルコールを少しだけ飲む。

(Bp. L 福島 須原. 二俣. 藤元

3月10日 ① → ⊕ [Ω]

小屋(6:40) - 奥新田ダム(8:20) - 1410m Peak (14:10) - 滑若岳への稜線上
1450m 付近 (14:50)

ダム湖を、まっかむびくりにスキーで渡る 向い沢は割に短い、途中か
ら1410へ北から上、てる尾根にでる。1410m Peak に東北下のデボがあり
り横目で見ながら行く。カムイエワが見える1450付近にS-H をほる。

3月11日 ② → ⊕ [Ω]

S-H (7:00) - ナメワツカ岳 (11:50)

尾根上でのスキーは使いにくい。股が痛い。ナメワツカのピーク迄苦勞
1ながら行く。ピーク付近で雪で視界が悪く、国境稜線への尾根の下リ口
が分らず。待柱1本。偵察を繰り返すが、やはり分らずピークにS-H をほる。

3月12日 ③ → ⊕ [Ω]

S-H (6:30) - 国境 (10:10) - エサオマン、9ベツ岳 (14:10) - 最後col手前 (16:00)

国境稜線への尾根は、割に両側が切れているが、心配した雪庇はなく、
シートライア アイゼンでラッセル、昨日の新雪が30cm程あるがスコワ簡単い。
国境稜線上は+勝側からの風が強い。気圧の谷が通過中だが、そんなに荒
れない。エサオマンから北東尾根を1ピッチ下ってまた戻る。雪庇に気を使
って日高側を巻いていて気がつかなかった。最後col手前で+勝側の
雪庇の下に掘るが、すぐブッシュが出てきて苦勞する。

3月13日 ④ → ⊕ [Ω]

S-H (7:40) - カムイ岳 (11:30) - トツ9ベツ 栗コシ (15:30)

今日は、スキーをはく。カムイのピーク迄、スキー、途中、カムイへ来た
A.P. を認める。カムイからは、プレイカブルな雪と、カンバに引掛かる
スキーに苦勞1ながら、今日も燃え尽きて、東colの大ききS-H に着いた。

A.B. 合流後.

3月4日. ○-⊗-① (Ω)

S-H(6:30) - トッダベツ岳(8:20) - 1916m Peak(11:30) - ピンク岳
手前のcol(14:15)

トッダベツの登りは急だ. すばらしいカールを横目でにらんでひたすら登る. トッダベツ - 北トッダベツの間は. 岩峰が所々あって. 巻いていく. 1916m peakの登り頃から気温が上がり. アイゼンが. すごいダンゴになる. 今日は. スゴク大きなSHが振れた. 十勝の町の灯が見える.

3月5日 ①風ッ - ② (合)

S-H(7:30) - ピンク岳(9:05) - 1791 peak(12:30) - 管林署小屋(17:20)

朝は気温がチヤウチヤウ低く. 風も強いので. 荷物をまとめて待機. ピンク岳の登りは. 少し怖い所もある. 1791 peak からニールを着けて北栗尾根を滑る. 樹林の中を ひたすら キョウクーンをくり返す. やっとラウシ林道へ. その林道はニールをはずしてまはひたすら暗くなる中を滑る. そしてニール. ちょうどいい所で小屋を見つけた.

3月6日 ①

小屋(7:30) - 上美生(11:30) = 井室(13:30)

今日も林道をひたすら滑りにく. 回りが1だいにひらける. 最初の湯泉でスキーをはすす. そしてシートラ. そして雪がなくなるにつれて. そして上美生で. ふるえながらビールで乾杯. ワクシーで井室へ. 日高P解散. あるいはまた日高へ. そして釧路へ行く者. そして. 利尻へ. 内地へと. 分かれる.

- ・スキーク長さは、一番短いのが160cm 長いのが200cm
大方の者が175~185cmのを使用した。長いのは使いたくない
短いのは心配ない。身長+10~15cmがいいんじゃないかな。
- ・縛具はカマハ-5、ジレブレ、MK4、Tour 1。簡単に感想を言うと、MK4はキレはいいけど重い、けど頑丈
高価。ジレブレは軽量、丈夫、歩み易い。けどほけな
散がある。カマハはシリアル高価。しかし使いやすい。
研究不足。要は全壊で揃えることである。

相池スキー、雪洞トレッキング山行

日高Pを中心に、僕達はスキーと雪洞のトレッキングの為相池へ入り雪洞2泊の後 早大小屋へ入り、スキーを1週間を簡単に報告します。

期間 350、2、22~28

メンバー 福島、吉田、須貝、豊田、左山、井上、岡本、二俣

2/22 ① 松本-白馬大池-初原-馬/背S-Hが基点

初原から、スキーにジロジロ降りたのが馬/背を登る。今日は初めてスキーをはいた者もいる。と言いつつ降りリフトは止ま、ていてそのリフトの小屋の下にS-Hを推した

2/23 ② 馬/背S-H-スキー練習-神田園の受付

馬/背上野がスキー練習する。雪は降り、夫々余り余り初めが初めて早大小屋へ行くつもりが、園の中へ入り込みウロウロ、突いて、今日もS-Hにすることを

2/24 ③ S-H-阪大小屋-スキー練習-早大小屋

今日は 早大と阪大と間違えて、全員阪大小屋へ入り、かき付いた

25~28、スキー練習 一番は25日下山、E1E1ハニ木コースを下った。

☆利尻山復察 (稟稜)

○ 50.3.20 ~ 3.24

○ L 吉田秀樹 (L-3.3) SL 豊田 信行 (A-2.2) 二保 勇司 (L-1.1)

○ 岡本真一 (A-1.1)

○ 3/20 ◎→○

○ 鬼脇 (6:20) - ヤムタイ沢 450m 地桌 (8:05) - 東稜 1100m 地桌 (10:40)

前日中に鬼脇に到着。小学校横の Camp 指定地に泊まる。

C1 から林の中を少しいくと ヤムタイ沢林道の標識があり、林道の終点である 450m 地桌までスキーでついでいく。ここから東稜には簡単に取付けれる。東稜に出た所にロープシヤでして高度をかせぐ。8年ぶりの好天続モリが雪は少有り。時間は早いから二の高度まで今 Attack できるので 1100m 地桌のコルに BC をおいて。

3/20 ~ 3/23 (水) 21 ◎ 22 ◎ 非常に寒圧が 23 ◎ 風ウツヨ

3/24 ◎

○ C2 (7:05) - ヤムタイ沢 450m 地桌 (8:05) - 鬼脇 (9:05)

この日は雪が少し積ったが、まだアイゼンがかなり来た。ヤムタイ沢はスキーで上げした。

○ 北海道行途に停泊した低気圧の為、登山は出来なかった。8年ぶりの好天続モリ、翌々日に入山したのは運が良かった。もう1日早く入山していたら、その時にまだ雪が積っていたはずである。しかしそれがよい教訓に行ったのは当然である。

僕らは冬山合宿としての利用の可能性について 74% の期待を寄せていたが、現在、B 隊全員が助せぬまで登るだけの価値があるのか疑問に思っている。さらに天気も悪く部分的には悪くが、スチールの足ではまだ不満足である。しかし、---

しかし、アフリカ 1100m 地桌からの海岬線、X の香り、雪氷が今も峰頂を思わし、僕の他の山に勝っているのは否定できない事象である。--- 雪氷が「利尻山登山」のすべてであったといえるかも知れない。雪氷がよいという。今は、

☆ 石鎚 (四国)

○ 50.4/3 ~ 4/5

○ L 豊田 (A-2-2)

ニ俣 (L-1-1)

○ 4/3 ① 伊予西条駅 ^{バス} 西之川 ^{只ノツキ} 成就 (16:30)
一前社^リ森 (18:00)

4/4 ① T.S. (8:15) - ニノ鎖ノ屋のテニバ (9:10) に設営
一サブで出 (10:20) - ニノ鎖下より、北壁下部を
東へトラバース - 東屋根上 - 中沢源頭 - ノコ
ギリ屋根上部 - 天狗岳 - T.S. (16:20) (12:15)

北壁 トイレトは、トイ (木通) 状部に氷。その
他 ホールトに 若干の雪。(カニテルートも。)

東屋根より南に派生する ノコギリ屋根 (墓場屋根) 上部で遊ぶ。2ピッチ半。2級程度でした。

4/5 ② T.S. (8:40) - 成就社 (9:50) - 西之川 ^{バス} 西条

今日は、カニテルートから南面へ入る予定が突
然下山となる。原因は、豊田さんか 田中さんに
行こうと雪面にさしていたピッチルをさ
たさ、石突きだけだつてこなかったため。
(シモンズパード!!) -----

○ 行く前から、うすうす感じてはいたのです。カニボとドジ
との山行では、~~ニノ鎖~~ こういう結果に終了たろうとい
うことは。

○ でも、二人にとっては 確かに 故郷の山。壁が登れなかつた
にしろ、沢に入れなかったにしろ、ノコギリと松本が
アツクを分ついで行った。いい。そのことだけで、いい
し、ないですか。

○ 長い参拝とはいえ、梅池・日高・利尻そして石鎚と
つづれながら、山行をつづけた二人。最後は、西条
の丈夫公園で、残った3日分の Essen と、わざわざ持
ちあげていた地酒一本で、「ワー、春だ、サクラだ、
お花見だ!!」で チョン。オソマツ -----

(YF)

NO1

'85 春山 南アルプス南部縦走報告書

☆ 期間 3月12日 ~ 3月25日

☆ member

CL 牧瀬敏裕 SL 古橋孝夫
この子分 横山嗣己 土田章 師田信人
(土田所属)

☆ 行動記録

▷ 3/12 ① → ⊗ or ⊙ → ① 塩川小屋

前夜の酒に若干つらつらしながら 晩の伊那を後にした。

伊那 ~~→~~ 伊那大島 ^{4:35} 入沢井 ^{9:23} → 塩川小屋 ^{10:55} ← テホ ^{3:30} (2300m地点) ^{3:08}

入沢井から塩川小屋までは2ピッチ。思いの他に早く着いた。
塩川小屋は結構暑くお湯もあった。塩川小屋で一休みした後、
テホに向かう。テホ地点は約2300mのところに。 (師田)

▷ 3/13 ○ 三伏峠小屋(小屋の中にテント張る)

塩川小屋 ^{6:27} → テホ地点 ^{9:13} → 三伏峠小屋 ^{9:44} ^{1:05}

朝の塩川小屋の寒かったこと、気が狂いそうになった。初め網戸
が広がっていたが途中からドゥッ晴れと存る。テホ地点で全
装備をつめ込んだらとたん小屋にキスが食べこむし、太陽はまじ
いい。雪はくさ、てくるして勝たんた子目にあつた。三伏峠
小屋は下が南にいたので中々使わせてもらう。シムシヤーの
結果 コーデックスシルク、コヒー、ハクミツ、ピタ、ピタ、ピタ
牧瀬さん、古橋さんは塩川小屋の偵察人。残りの3人はストーブ
用のたき木とか、白布たき火は、とつても暖かい。 (師田)

▷ 3/14 ① 前日と同じ

三伏峠小屋 → 本谷山 → 塩見岳 → 三伏小屋
6:10 7:05 7:15 10:52 11:12 15:14

今日は最初の3000m峰 塩見岳アタックの日。小屋から見る限り、いかにも危そう。朝は快晴で中ア。北ア。富士山の展望が素晴らしい。本谷山までは快道若ペース。そこから杉林帯に入ると、いつ落ちこぼれかかるとな感じだ。た。一年生3人はほとんどうまご回数が多い。雪の中でもがく落が多く見られ、何とも美しい海であった。塩見山頂付近の危岩は岩と雪でかなりスリルがあった。帰路はバテバテ。ストーブのあひ小屋でよかった。 (土田)

▷ 3/15 〇 3.14日と同じ

E. Allen が のため、荷を軽くする意味で沈。
一日お休みしゆくりと休んだようでした。(古橋)
《今に思えば、これがつまりの山だ。》

▷ 3/16 ② ガス → 〇 ライト (板屋岳直下)

6:30 三伏峠小屋

↓ 10:30 小河口内岳 避難小屋

↓ 昼飯を食う。天候がよくなりガスも晴れ、光が射し込む。5人、さ、とうとう先をめでに出発。

↓ 11:30 大日影山 手前

↓ 暑くしかたない山は春である。

↓ 13:00 大日影山

↓ 意外と遠かった大日影山、荒川、赤石とすばらしいながめである。

↓ 16:00 T.S.

板屋岳の登りはかなり苦しい。セルカ縋きされた。雪は安定しているが、一度クラストした雪を踏みぬくと、実は危い。 (古橋)

NO.2

▷3/17 ①→②→③ テント (荒川岳産後 2600m付近のコル)

T.S → 高山裏 → 荒川岳登り 2600m付近
8:00 8:45 9:10 14:10

朝 寝坊をして出発が遅くなった。今日は快調、と思いたが、やはり高山裏までで以後は相変わらずの、4人がすすつた荒川を越えることはできなかった。荒川岳の登りの悪さを覚えることながら、1年目のラッセルの悪いのにまだイライラするばかりで、崖まぬけ道の1人がかり、と感じ身が減る。とにかく明日は死にま(ま) (牧瀬)

▷3/18 ① テント

T.S 7:00

↓ 荒川岳への鋭いナイフリッジと無数とも思える程の岩峰を越えていく。ツリカッタ... みるん、ツリカッタ

荒川前岳 12:00

↓ 別にみるん行く行路が悪沢の午前が少しナイフリッジにたどり着く。

悪沢岳 13:30

↓ 行路はみるんと同じ時間で Picton

荒川前岳 14:40

↓ 積雪がたいにたんと行く。クシムスがついていて助かる。

荒川小屋土部のコル 15:40

キヌをかついであのナイフリッジをみるんが行ったことは、僕にハマ目悪木を持っていく。特に1年生諸君にとり、今後の自信を持ってくれれば... ま、とにかくツリカッタ (古橋)

《この日 荒川の尾りで、牧瀬林を除く4人が凍傷になる》

▷3/19 ① 風強し テント

赤石の方向には雪煙が霧に川を寒やう。四時頃川に居るのにどうしてこんな風が強いのか、といて(丸)

尾すきは風が来た(ま)が道を通るをきめこんだ。朝から横山が目を痛めたらしく、休むる漢を流してた。17(朝)子悪やう (古橋)

《今日は尾の尾、こが、つりまの尾だ。た》

▷3/20 ◎で⑤ 北越 国は上のすだく強し 天ト

T.S → 赤石岳 避難小屋 → 小屋から50m程離れた凹地
6:55 9:30 10:30

テニ場出発時は風も弱く、気温も高い状態であった。赤石岳を越え、
百向平への下降は強風のため難しく、山腹下のコルあたりまで引連れ
テニを戻す。おと半沈と作る。

テニがいつまでもつか 今夜は肌寒い感じが、あま、小キジをうつの
おっくらになる。(土田)

▷3/21 ① 聖岳 → ⑤ Snow Hall

T.S → 百向平 → 百向洞
10:00 12:20 1:20

朝はきのうからの強風があたが、やや弱まり、空は晴れてきたので、
9:00の天気予報を聞いてから出発。甲州側の支尾根に入りこみ、
百向平に出るのタイミングがなかった。百向洞上のコルに雪洞を作る
(横山)

▷3/22 ◎ → ① 前日に同じ

早朝は曇っており、外は強風が吹き荒れていた。Yのうちに^陽は射
してきたけれど、赤石方面と大沢～聖方面も烈風が吹きまわし、雪煙
が舞っている。書く材料は1枚Hの紙結局沈 天気が11:00のK. この風
さ之をけいけい... 風のバチバチ... かがいで先まで行けなにかも、お
快道存 S.Hの中が、まかた。Yに17キ横山は、こんな風の中を
よくキジうちとしく、大したゴンスリだ。(白田)

▷3/23 ① → ⑤ 天ト

S.H → 大沢岳 → 中盛丸山 → 赤岳 → 聖岳 → 小聖岳下のテニ場
7:15 8:41 9:08 11:00 1:55 2:45

今日は聖を越えてこうし思ひ、その間に与りやるように朝からド、晴れて
あま、お昼中からおかしく有り 聖の登りでは雪が降り始めた、午後1時
15分の中 横山～大沢Hスズメを歩いていった、小聖岳下降中、どらがり
テニを発見し、よこしてテニを戻す、食べた食べた、おま、おま、おまがある
(ニ田)

NOB

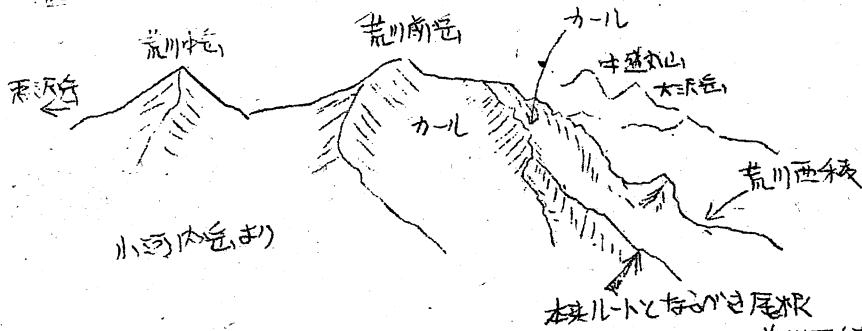
▷3/24 ① → ⊗ テント
T.S → 西沢渡 → 長老渡
9:15 12:15 2:15

下山初の日 つまらぬ状況 予じのとき食いのり(たため、聖平お)
下山凍傷にかかた足の氷(か) 小部分かづ4ヵむけて 急登下り坂の
狭いこと、狭いこと、脚も同様 体感登山危念ごにやして
て、駈け出すうちに下った 氷に足が痛いの。(横山)

▷3/25 ①
T.S → 本谷口 12:00 12:00
7:30 12:00 12:00 那 ~~→~~ 松本

待ち下り、下り山の日、おん存うか(どうか)した、有事もなく
快適に飛ばして本谷口に着きました。(横山)
←これは足が痛くて 氷に足が痛いの(横山) →

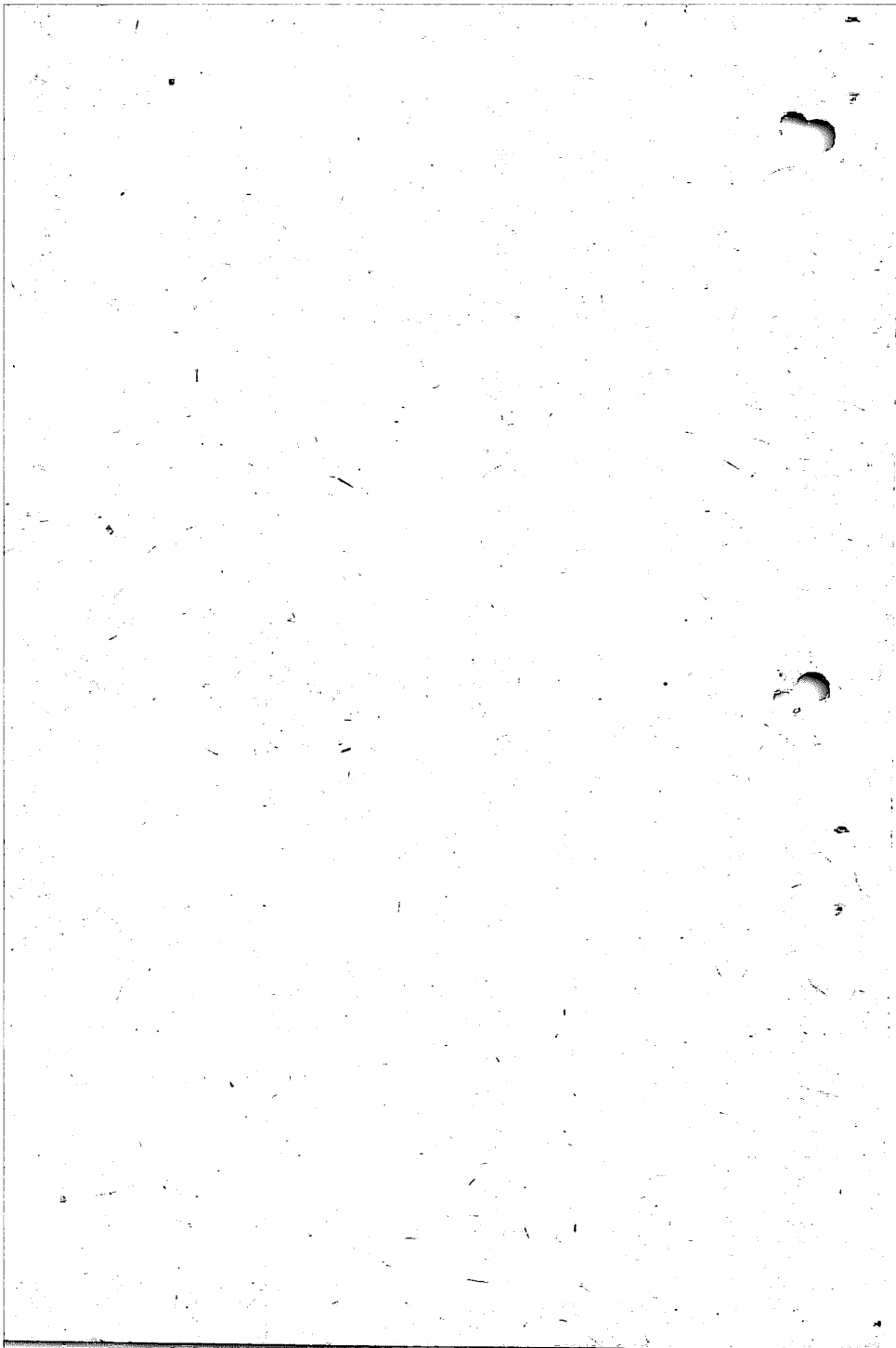
☆ 荒川岳西麓(傍線)について



我々は高山稜線(が)と稜線(が)区に行くため、荒川西麓に入り
て、非常苦勞をした。本来のルートは下部でカールや橋(が)て
りの上にある尾根に取ると思われる。西麓からみた限り、
この尾根は、大7ヤサでキハなし。岩(が)も長く、実(が)やさい
だった。

西麓で凍傷になったのは、カールが足(が)の不注意(が)で、た
くは(が)物(が)です。

以上 //



唐沢岳東尾根

古橋孝夫, 藤元 治朗

4/24 (●) 松本一丁目 - 葛西 - 東尾根取付 - 1300m付近 (C1)

雨の中、工事中の高瀬川を取付奥へ、急登がっつく。1300付近で岩峰あり、ツェルトを張る。

4/25 (●) C1 - 1660 peak - 1660p直下のコル (C2)

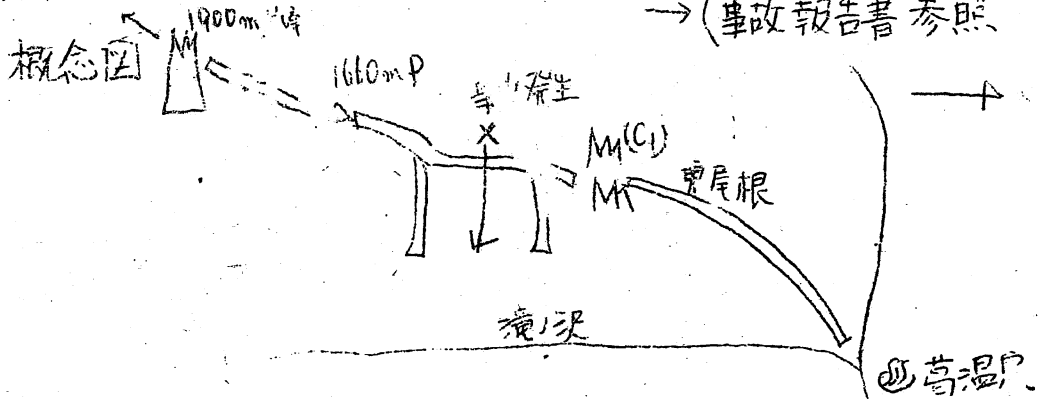
地面の氷筋は最悪。氷をたどりながら人足上に枯葉が溜まっていて、1400m付近から雪、セザオでもいるグサグサの雪。加えて雨が降りだし意気消沈。1660 peak付近はヤブ。ツェルトを張り、1900m岩峰を偵察に行きたがる。峰直下まで行かず、核心部の様子は一足と雨で不明。

4/26 (◎) C2 - 往登下山 - (事故発生) - 下山

天候、意気、1900m峰の不明、雪を登り下山決定。1100m付近で藤元がスリップ、30~40mルゼ状の氷と岩に落下。直ちに古橋により救出され、信大病院へ。

唐沢岳peak 概念図 1900m峰 1660mP 事故発生 M(C1) M(東尾根) 唐沢 葛西

→ (事故報告書参照)



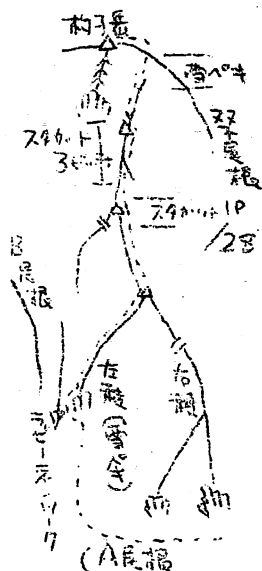


◎白馬東面 (4/27~4/29)

(1)メンバー: L吉田秀樹(L44.4)、福島渉(A4.4)、岡本真一(A1.2)
 村田卓穂(A2.2)、井上雅子(A3.2)

A1パーティ: L吉田・村田・井上
 B1パーティ: L福島・岡本

(2)行動4/27 ◎松本→白馬→猿倉のヤチノ前(7:43)→猿倉荘(8:05)



— 猿倉台地末端(8:25)
 Aparty: — 杓子尾根取付(9:18) — 双子尾根シヤクシニシペリ(15:10)
 — 稗平(16:38)B.C.

Bparty: — 猿倉台地 — 双子尾根2100mより東北東へ派生する尾根 — 双子尾根2120m(11:00) — 稗平東上の2140m高地
 上へ設置入天(12:10) 上へ下りて小雨模様

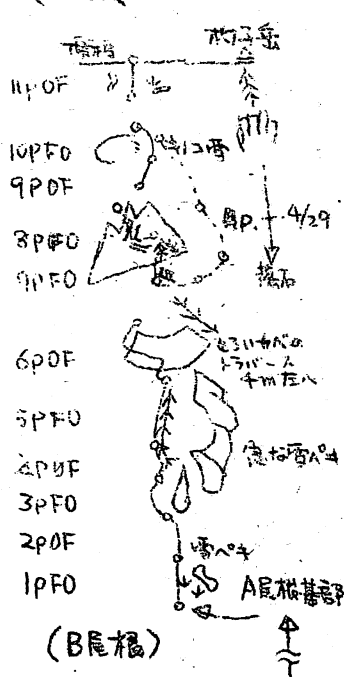
1/28 ◎ Aparty (吉田・村田) Bparty (福島・岡本)

Aparty: BC尾(5:25) — 杓子尾根取付(7:10) — 杓子岳(9:02~11:45) — 双子尾根 — BC(12:30)

杓子岳0Cにてコンテスタカットの練習をしたの5トライアスして取付く。コンテスタカットを併用して(取付と最終のみ雪壁だが大井雪壁)がその中を杓子岳につく。下降り始める頃には太陽が急激に曇り始めた。

Bparty: BC尾(5:25) — 杓子尾根取付(7:10) — 杓子岳(12:50) — 双子尾根 — BC(14:00)

雙子尾根の頂上0Cにてコンテスタカットの練習を受けてからA尾根下り入トライアスし基部へ登る。晴れ。途中BC間又はCD間を大音響を察してブロック雪崩が落ちる。40~50mの近さだ。尾根基部は尾根基部へトビノツツをこえてトライアス。平らなスタカットで雪壁を登る。4Pで最初の岩峰を左の急な雪壁から差す雪壁をたどる。6P。次の岩峰にかりも3つ壁をたたく。ペース意味に登り11mツツをかんご上部雪被へ出る。コンテスタカットで進みB尾根最大の三角型岩峰にかかる。基部シルドから雪の重壁を越え極めても3つ壁を右よして7P目を切る。11-12を1枚落としたためにハンマーをクワリに引っ込んでいざいざがきつたのはおもしろい。足場を雪壁も不安定の上は11。8P。た上するB尾根基部の出口へとたどるが、岩はもろく、コンテスタカットを取れないためにサバキも動かさず、トビノツツは不確実な手取り共に緊張させられる。どうにかこなし雪被へ出たが、この20分、イワハシの鋭い発射音にキレた。10P目までたなキコ雪の右を岩をつたて登ったが、この頃になってようやく雪壁上がた壁を認識し、キコの下からあふく頂上白い雪壁と青空のコントラストがきれいだった。頂上はA尾根の上からC尾根にかけて2~3mの雪庇を張り出していたが、B尾根上部には高さ3mほどの雪庇になっていたため、セリヤルと狭い溝を掘る程度で抜け出た。嬉しかった。



(B尾根)

4/29 ① Aparty (吉田・井上) Bparty (福島・岡本)
Aparty: BC発(4:48) - 杓子岳B尾根取付(6:10) - 頂積(9:35)

- BC(11:00)

雪崩が少く起る。9:00に尾根をわたすが、早川とピークまで
行った方がよいので他はあまり休まず登る。大きな岩峰は
巻き、コンテスタカットでぬける。途中非常にくすねやツリ所を
とある。天気は非常に良くピークでは剣岳・尾崎三山が見える。

Bparty: BC発(4:45) - 横平より利子沢へ下降 - 白馬尾根北尾取
付(5:00) - 寛平ピークの頂(8:30) - 頂(10:50 - 11:40) -
- 杓子岳(12:10) - BC(12:45)

取付よりザイルが縦尾根をかせぐ。主に稜線と杓子沢側
のシルニセ上部を巻いて進む。稜線は、杓子沢側の平坦な岩は
直下で甲虫のスタカットに移りたを巻いて稜線に出る。雪積
が少くたけはナイアジに付いたブシコがあり、岩だけの部
分はぬすけた。稜線とピークはヒッチクワインでつながっている。
稜線を突進したとき、ツリコエの谷間は最高に快適な
ナイアジだ。3つに、さにあらず。11:00に付いたのころで中央稜
との間のシルニセを北尾のシルニセまで目撃して登る。
J.P.より上部は下口ボロの中と北尾と下部よりすくなく
また雪面が交互に現われツリコエはない。このあたりまで
何回か休ませて50分程度の休息をしたが、北尾と川の
をくたがれるルートだ。

下山 : Bparty がもどった頃より天気がすくなくガスがかかっていた。
天気図を見るとくすねとツリコエ。このため下山を決めた。(13:30)

TS発(13:38) - 猿虎(14:23) - 頂(15:55) - 白馬五札本
小雨の中を、行路の尾根から右の、猿虎台地上部までシリセ
ード。猿虎から八丁への道は、キトツヤリツリが下り出し、
あふれる水量は夏を聴かせた。

◎明神稜線 志沢コガ尾根 (4/28 - 5/1)

(1) X-R : L 明神志明(A3-3) 豊田信行(A3-3)

(2) 行動 4/28 : 上高地(13:00) - 明神着魚池(14:00) - ヒヨウ池(15:30)

4/29 : ① B.P.(5:30) - 主峰稜線 - 稜線・明神の頂(7:45) - 明神
神沢 - 志沢ヒコツリ(9:00) - 志沢 - コガ尾根 - シカク川(16:30) - 明神(17:45) - 稜線 志沢山荘(18:00)

4/30 C B.P.(13:00) - 北稜(15:15) - 稜線の上(18:45) - 北稜沢 - 志沢
(16:00)

5/1 ① B.P.(14:00) - 稜線志沢山荘付通(16:30)

先行part) 志沢稜線はたのシルニセを巻く。コガ尾根の頂はザイル
3センチ。1稜線の下り70m位1つ左の尾根をまちがって下る。
2人とも体不足で2日目の行動がエラカク。志沢川あたりに豊田
が遅れがちになり、互いの距離感がはなれすぎることもあったが、新人ではない

ので向題はないと思う。はじめはピバークによるスピードな長時間の行動をめざして入山したが、体力不足なれあいなどであまり結果はよいものではなかった。

◎北穂 滝谷 四尾根

(1)メンバー：吉田秀樹(L4.4)、須貝与志明(A3.3)

(2)行動：先の明神堂稜に引きついで横尾岩小屋でメンバーが合流し四尾根を登攀した。四尾根は夏と変わりない状態だった。

※平巻のため原稿が係の平巻に届かないので略記します。

